※ 報告書に載せます。

平成20年度「家庭医実習」を終えて (Post Report)

学生番号: 93　　学生氏名: 高橋 直子

実習先医院名: 医療法人社団青い鳥会 上田クリニック

本 文

上田クリニックは訪問診療を主体にしているクリニックで、家庭医というと外来診療が主で、重症患者さんのみ往診に行くと想像していた私にとって新しい発見の多い楽しい1週間となりました。火曜日から金曜日まで斎藤先生をはじめいろいろな先生についてたくさんの患者さんの訪問診療に同行させていただきました。また、外来の見学、ソーシャルワーカーさんの話や、ヘルパーさんの話も聞かせていただきました。

実習で一番心に残ったことは家庭医は全人的に患者さんを見ているということです。問診でも、在宅医療に移行するに当たって、患者さんの希望、家族の希望、生活環境、患者さんのQOL、など幅広く情報を集めていました。もちろんこれらの問診は医師だけの力でとれるわけではなく、ソーシャルワーカーさんやヘルパーさんや訪問看護師さんも仕事をするにあたって患者さんと話し、記録を取っていて、それらの情報を皆が共有できるようにすることで、患者さんのことをより深く知れるようになるのだと感じました。実際に先生のそばに付いていると、「～さん、今日は元気そうでご飯をたくさん食べれていました」とか、「認知症の～さんまた留守にしていて訪問できなかったそうです」など、コメディカルの方が患者さんに関する情報をたくさん教えてくださり、患者さんの日々の変化を知ることができました。このように2週間に1回の訪問診療でも、在宅で医療を続けていけるのは、周りのスタッフとの協力があってこそだと感じました。在宅医療では、病院では気づかないような細かいところまで患者さんが暮らしやすいように考えていて、患者さんの生活に密着した患者さん思いの医療が行われていると感じました。また、患者さん本人だけではなく、家族と医療者の協力も不可欠で、信頼関係を築いていくことの大変さも見学していて感じることができました。患者さんと家族とケアマネージャーと医師での今後の介護方針についての話し合いに同席させていただいた時は、家族の中で意見が割れていて、医師やケアマネージャーが意見をはさみながら30分以上話し合っていても方向性がまとまりませんでした。医療者、患者さん、家族が「在宅医療」という一つの方向性にまとまることの難しさも感じられました。一方で、信頼関係ができている家庭を訪問した時は、患者さんや家族の在宅に関して満足している様子、真剣に医師に在宅に関する悩みを相談してくださる家族の様子を見ることができ、将来このような関係が気づけたらと思えるような家族にもたくさん会うことができ、いい経験となりました。最後になりましたが、今回実習でお忙しい中温かく迎え入れてくださった斎藤先生、上田クリニックのスタッフの方々、訪問診療の見学を許可してくださった患者さんに大変感謝しております。本当にありがとうございました。